河合健次さん

明石市立清水小学校教諭

愛知県出身。平成3(1991)年、芸術系専修コース(美術)を卒業。25(2013)年、現任校に着任(図画工作科専科)。26年11月から4カ月間、「第6回教員南極派遣プログラム」に参加し、第56次日本南極地域観測隊に同行した。

➡南極日時計による24時間観測

より大きな視野で共鳴し合う機会を

昨年参加した「教員南極派遣プログラム」では、時と色彩をテーマにした授業を昭和基地から行いました。南極の写真5千枚で構成したフォトモザイク画を作製し披露しました。写真は美しい風景、生命を輝かせる生き物たち、夢や希望を抱く観測隊員の姿であふれています。

南極では、人類は最小限の物資を持ち込んで間借りしているにすぎません。時間もその一つ。私は南極仕様の日時計を制作し、地球の底に位置する地で影により獲得されていく「時」を観測しました。

図画工作科には、ものづくりを通して他の教科・領域で学んだことを統合させる力があります。それは多様な分野の人が互いの専門性を共鳴させ、多くのプロジェクトを成し遂げていく観測隊も同様です。教員を目指す皆さんも、学校という小さなフィールドにとどまらず、より大きな視野で、さまざまな分野の人たちと共鳴し合う機会を求めてください。

杉谷義和さん

鳥取市立修立小学校教諭

鳥取県出身。平成23(2011)年、専門職学位課程修了後、現任校に着任。今年度は4年生担任、道徳教育推進教師を務める。今年1月、著作権に関する教育実践が評価され、第10回著作権教育実践事例(CRIC)「優良賞」を受賞。

➡道徳の時間「著作権をテーマにした学習」の様子

大学での学びはスタート地点にすぎない

教職大学院では、2年間という限られた学びの時間をとにかく大切に過ごしました。1年目は授業づくり、学校経営などさまざまな分野について学び、2年目は著作権教育に絞った研究を進めました。幅広く学んだことで若手教員にアドバイスできる力を養い、研究を深めたことで得意分野を持つことができました。

私が大学生活で大切だと思うことは、①自分が何を学び、どんな教師になりたいのかを明確にすること、②一つ一つの出会いを大切にし、プラスになることは即行動に移すことです。大学には自分を伸ばす資源があふれています。それらを有効に活用し、P(Plan)→D(Do)→C(Check)→A(Action)のサイクルを定着させると学びも豊かになります。

現在も「大学での学びをスタートと考える」という言葉を大切にしながら、教員生活を送っています。大学を卒業して5年。私の学びは続いています。

▶同窓会・都道府県連携推進本部からのお知らせ

教育実践研究活動等に係る表彰について

8月1日、2日に仙台市で開催した第35回大学院同窓会宮城大会で、平成27(2015)年度「教育実践研究活動等に係る表彰」を行いました。この表彰は、教育実践研究活動等に顕著な成果を挙げ、大学や大学院同窓会の名誉を著しく高めた修了生が対象。今年は5人を表彰しました。詳しくはHyokyo-netをご覧ください。

◎被表彰者(敬称略)

嬉野賞／坂口豊(1期・言語系、大阪府)、花井正樹(4期・生徒指導、愛知県)、平松清志(5期・生徒指導、岡山県)

奨励賞／酒井達哉(30期・言語系、兵庫県)、真鍋博(2期・教育基礎、愛媛県)

問兵庫教育大学都道府県連携推進本部　TEL0795・44・2406　FAX0795・44・2376　Hyokyo-net ▶▶▶http://www.hyokyo.net